

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生理系分野		機能画像医学特論Ⅰ・Ⅲ				曽根 照喜	
開講年次	共通／専攻／選択			単位数			
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択			特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
臨床医学における核医学の意義と限界を理解して、機能画像医学研究を遂行できる能力を修得する。							
授業到達目標							
(1) 各種の核医学検査の臨床的役割について説明できる。 (2) 核医学と他の画像検査の適切な使い分けについて説明できる。 (3) 現在の臨床核医学の限界を理解し、解決すべき課題を挙げられる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	月	17:00-17:30	曽根 照喜	講義	[症例検討会]	核医学の症例検討会 [場所:本館棟1階核医学診療部]
2	毎週	金	16:00-17:00	犬伏 正幸	講義	[抄読会]	放射線核医学の英文論文を紹介し、それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟5階放射線核医学実験室]
3	毎月	第4月	17:30-18:30	犬伏 正幸	講義	[症例検討会]	毎回テーマを決めて臨床核医学の勉強会を実施する。 [場所:本館棟11階臨床教育研修センター]
4	毎月	第4水	18:00-19:00	犬伏 正幸	講義	[症例検討会]	転移性脊椎腫瘍リエゾンカンファレンス(臨床各科合同) [場所:本館棟13階中カンファレンス室]
評価方法							
【特論Ⅰ】 (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 【特論Ⅲ】 (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁:単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
紹介論文の要約について、添削して返却する。							
教科書							
ISBN-9784830637452, わかりやすい核医学: textbook of clinical nuclear medicine, 玉木長良, 真鍋治編, 文光堂, 2016							
参考書							
ISBN-9780323377539, Diagnostic imaging: nuclear medicine, Paige Bennett, Umesh D. Oza, , 2016 ISBN-9780781779999, Principles and practice of PET and PET/CT, editor, Richard L. Wahl, Henry N. Wagner Jr.; associate editor, cardiovascular PET section, Robert Beanlands, Lippincott Williams & Wilkins, 2009							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 取り上げた文献・論文を精読し、予め内容を理解しておく。 (2) 復習は論文に関連する内容について行う。 (3) 予習と復習にはそれぞれ1時間以上をかけ、特に自身が担当の時は十分な準備をして臨む。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的的方法論・思考法を知悉する。							
注意事項・メッセージ							
代表的な基礎的および臨床的英文論文を読む習慣を身につけてください。							